

# 腫瘍内科

## 概要

部長：安井 久晃

スタッフ：部長＋常勤医師 2 名

外来：月～金、午前・午後（予約外来）、火曜午後（がんゲノム検査外来）  
随時対応（セカンドオピニオン）

### ● おもな実績（2020 年度）

#### ■ 外来化学療法

年間治療件数 11,890 件（外来化学療法加算算定実績）、うち腫瘍内科は 3,356 件

#### ■ 入院患者数：年間延べ 2,578 人、平均在院日数 17.9 日

#### ■ 臨床研究・治験：特定臨床研究 26 件、指针对応研究 46 件、治験 14 件

## 特徴

化学療法（がん薬物療法）の適応となる進行固形癌患者が当科の診療対象である。化学療法はほとんど全て外来をベースに行っており、消化器癌を中心に、肺癌、乳癌、頭頸部癌、婦人科癌、泌尿器癌、原発不明がん、軟部肉腫等が経験可能である。腫瘍内科コースは消化器内科・外科、呼吸器内科・外科、乳腺外科、血液内科、婦人科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線科、病理医とカンファレンス等で連携しながら幅広いがん腫に対応可能な臨床腫瘍医を目指すことができる。希望があれば、各科のローテーションも調整可能である。希少がんの経験を得るために、他施設（兵庫県立がんセンター等）での研修も希望に応じて検討する。また、緩和医療は腫瘍内科学の一つの柱であるが、緩和ケアチームへの参加、緩和ケア科での研修は必須と考えている。

当院には、がん専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、緩和医療専門看護師、がん専門薬剤師、CRC といった、がん診療に欠かせない専門性を持ったメディカルスタッフが揃っており、高いレベルのチーム医療の習得が可能である。

当院は日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の認定研修施設であり、研修プログラムに沿って基本的な臨床知識・経験を身につけ、がん薬物療法専門医の資格を取得することが最も重要な研修目標の一つとなる。

また、当科では臨床試験や治験（国際共同臨床試験・開発治験などを含む）を多数実施している。上級医の指導のもと、自身で研究を立案・実施したり、学会発表や論文執筆を通して臨床研究の経験を積むことができる。

### ● 取得可能専門医資格（研修修了後も含む）

がん薬物療法専門医、がん治療認定医、日本内科学会認定医・総合内科専門医、等

### ● 参加する医師に期待すること

初期研修では一般内科の診断治療、基本的な手技、放射線画像読影、薬物に関する知識や副作用への対応などを習得しておいてほしい。患者さんやメディカルスタッフとのコミ

コミュニケーションスキルの習得、治療中の副作用の管理やオンコロジー・エマージェンシーの対応、終末期の対応、がん診療に関連する生命倫理的な問題への対応ができるようになることも目標としてもらいたい。診療・教育・研究において主体的な研修を期待する。

## 一般目標

1. 臨床腫瘍学一般についての知識を習得し、専門知識と経験を深め、標準治療のみならず、病態に合わせた治療を安全に施行できる。
2. 患者の背景や希望を考慮しながら、患者一人ひとりに合った治療方針を決定するためのコミュニケーションスキルを身につける。
3. 新薬の治験を含む臨床研究に参加し、研究者としての経験を積む。
4. ゲノム医療についての知識を習得し、日常臨床としての経験を深める。

## ● 研修プログラム（年次目標は順不同）

1年目	2年目	3年目
内科学一般／臨床腫瘍学	臨床腫瘍学	臨床腫瘍学
造血器腫瘍	乳腺腫瘍	臨床試験計画・実施
消化器腫瘍	婦人科腫瘍	論文作成
緩和医療学	呼吸器腫瘍	海外学会発表

## 週間予定

	朝	夕方
月	症例カンファレンス・病棟回診	カンサーボード（毎月最終週）
火	症例カンファレンス・病棟回診	緩和ケアカンファレンス 消化器合同（肝胆膵）カンファレンス がんゲノム医療エキスパートパネル（京大病院）
水	症例カンファレンス・病棟回診	腫瘍内科カンファレンス Genomic Tumor Board
木	症例カンファレンス・病棟回診	頭頸部治療カンファレンス（隔週）
金	症例カンファレンス・病棟回診	放射線治療カンファレンス（隔週） 消化器がん（上部消化管）カンファレンス

## 専門研修プログラム

当院内科専門研修プログラムは、下記ホームページをご参照ください。

URL : [http://chuo.kcho.jp/recruit/late\\_resident](http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident)

## 見学等問い合わせ先

安井 久晃（やすい ひさてる） : [hyasui@kcho.jp](mailto:hyasui@kcho.jp)